

拠出金名:世界エイズ・結核・マラリア対策基金拠出金

国際機関等名	世界エイズ・結核・マラリア対策基金 (英文名称・略称) The Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria (The Global Fund)					
種 別	国連本体		国連専門機関		（その他）	
所轄官庁担当局課名	外務省大臣官房国際社会協力部専門機関課					
最近3年間の我が国支払額及び拠出率、ODA率						
単 位	金 額				拠出率(%) (注1)	ODA率(%)
	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千ドル)	外貨2	レ ー ト		
平成16年度	8,932,000	81,200		1\$ = 110 円	(2004年) 6.1%	100
平成15年度	9,350,000	(注2) 83,032		1\$ = 122 円	(2003年) 8.6%	100
平成14年度	10,248,000	84,000		1\$ = 122 円	(2002年) 8.6%	100
拠出上位5ヶ国(暦年ベース)						
	国 名	(千ドル)	率(%)	本基金の財政 (16年度決算)		
1位	米	458,881	30	当該年度の収入 1,288,507千ドル		
2位	EC	264,413	17.3	当該年度の支出 905,115千ドル		
3位	フランス	182,066	11.9	次年度への繰越 383,392千ドル		
4位	イタリア	121,020	7.9	会計検査機関名		
5位	日本	86,126	5.6	Ernst & Young		
上記の率及び順位は2004年。但し、伊は2005年に支払。				(現在の構成員の出身国:)		
当該機関に対する我が国としての評価(当該国際機関の政策に対する我が国の意見の反映度を含む)						
(1) 世界エイズ・結核・マラリア対策基金(世界基金)の設立 世界の三大感染症といわれるエイズ、結核、マラリアの蔓延により、アフリカ、アジア等の途上国を中心に毎年600万人の生命が奪われている(平成16年WHO年次報告)。三大感染症防止は国際社会のコンセンサスとなっているのみならず、我が国国民の健康保護にもつながる。我が国は、2000年九州・沖縄サミットで感染症対策を主要な議題として取り上げたが、感染症対策分野における積極的な姿勢が、その後地球規模の取り組み強化に向けた流れへとつながり、2002年1月、世界基金が設立され、我が国は世界基金の「生みの親」といえる。世界基金は、開発途上国におけるエイズ、結核、マラリアという三大感染症の予防・治療・ケアを行う、国、国連機関およびNGOが実施するプログラムを資金面で支援している(同基金の資金管理は世界銀行が実施)。 (2) 世界基金の実績 エイズ対策では160万人以上のアフリカのエイズ患者に抗エイズ薬を配布し(現状は13万人配布)、予防面では5200万人以上に自発的カウンセリングと感染検査を実施(現状は100万人)する予定である。結核対策では350万人の新規感染を診断し治療を提供し(現状は385,000人)、薬剤耐性結核治療が1万2000人に実施される。マラリア対策では耐性マラリアの治療に必要な混合薬剤(ACT)を1億4500万人に配布(現状は30万人)し、予防に不可欠な1億800万帳の防虫加工蚊帳が配布される(現状は135万帳)予定である。 (3) 我が国の取り組み 我が国は、世界基金の最高意思決定機関である理事会において理事国として積極的に関与し、1/20の投票権を有し、世界基金の運営・管理に我が国の立場を反映させている。日本政府の世界基金に対するこれまでの拠出総額は2005年末で3億4652万ドルにのぼっており、また、2005年6月30日、小泉総理は世界基金に対する拠出を増額し、当面5億ドルの拠出を行うことを発表した。このように我が国は世界の感染症対策に果たしている世界基金の重要な役割を認め、高いプライオリティを置いている。 (4) 今後の展望 2005年は7月のグレンイーグルズ・スサミット、9月のMDGs首脳会合、世界基金の増資閣僚級会合等の開催等、HIV/エイズを始めとする感染症対策は国際社会の課題となっている。 我が国としては今後他のG8諸国と共同歩調をとりつつ、今後、世界基金の運営・管理に更なるイニシアティブを発揮し、また近い将来アジアにおけるエイズの感染爆発の危機に対処していくために、世界基金を利用しつつ、国民への啓発を図っていく。						

合理化、機能強化のための改革が行われているか。行われている場合はその現状と我が国としての評価

(1)世界基金事務局の機構改革

世界基金は2002年1月の発足以来、内規、M/E(モニタリング&評価)戦略、国別調整機構(CCMs)の強化、事務局の組織等の機能強化にかかる改革を実施中。我が国は理事(外務省国際社会協力部参事官)としてこれらのプロセスに積極的に参加している。2003年予算の承認プロセスの中で、他の理事国と共に、基金の合理化を促し、実現させた他、2004年4月、フィーチャム世界基金事務局長は管理対象案件数の増大に効果的に対応するため、事務局機構改組を実施している。

(2) 受益国における効率化

世界基金による支援の受益各国は、プロジェクト形成に当たり、政府関係者のみならず感染者代表、NGO、学会、宗教団体等を含む関係者の見解を反映させなければならず、支援を最適化するための円滑な実施への留意がなされている。更に、必要な財・サービス調達に際し、途上諸国は世界基金の支援案件実施に国際競争入札が義務付けられ、更に各国の調達単価はHP上で公開されるため、妥当な購入価格が確保されている。更に、世界基金においては「事業の進捗に応じた資金供与」(Performance based Funding)の原則が徹底して実施される仕組みとなっており、資金使用の適正が制度的に確保されている。

(3) 我が国の取り組み

今後、我が国としては、世界基金の合理化と効率化のために、財政・監査委及び政策・戦略委(各々年4回程度開催)において、財政規律の遵守、事務局スタッフ増員の歯止め、資金拠出の迅速化、現場レベルでの援助調整の促進化等につき具体的に提言を行い、理事会の場において合意形成を図っていく方針である。

邦人職員数 うち幹部以上	2人(注3) (幹部以上:なし)	当該機関の職員数及び 邦人職員が職員全体にし める率	約150人 1.3%
-----------------	---------------------	----------------------------------	---------------

邦人職員が占めている幹部ポスト

ポストの名称	職 員 氏 名	備 考

当該機関重要ポストへの邦人職員送り込みについての具体的な計画

我が国からは、2005年6月まで基盤支援・企画部長として関栄一氏(厚生労働省からの出向)が勤務しており、後任を現在人選中。

(注1) 我が国とは会計年度が異なるため、拠出率については暦年。また本件基金に対する無償資金拠出を含めた拠出率。

(注2) 我が国は本基金に対して2001年6月に2億ドルを拠出表明しており、このうち財務省予算で25%、外務省予算75%を手当てした(平成14~16年度)。なお、平成15年度邦貨支払額のうち補正予算分は\$=110円で換算。

(注3) 邦人職員数は2005年12月現在のもの